

様

硬膜外無痛分娩に関する説明書・同意書

患者 _____ 様

に以下の通り説明をしました。

富山市民病院麻酔科

医師 _____

「無痛分娩」

- 1) 無痛分娩とは麻酔を使用する分娩方法で、代表的な麻酔方法は硬膜外麻酔です。無痛分娩は、すべての痛みを取り除くのではなく、最低限の痛みを抑えるものです。※ただし、麻酔の効き方には個人差があります。
- 2) 当院における無痛分娩は、計画分娩で行っています。子宮収縮薬を使用し陣痛が始まってから麻酔を開始します。

「麻酔を受ける方に守っていただきたいこと」

- 1) 術前の絶食と絶飲
麻酔の前には胃の中をなるべく空にしていることが安全上重要です。
しかし、清澄水であれば無痛分娩中も摂取しても構いません。
(スポーツドリンクも可)
- 2) 既往歴の申し出
過去に経験した、あるいは現在も治療中の病気は必ずお知らせください。
特に、麻酔や手術の経験は忘れずに申し出をお願いします。ごくまれに、
遺伝的に麻酔に異常反応をする家系がありますので、本人、親族で麻酔
の異常反応を経験された方は必ず申し出てください。

「硬膜外麻酔の方法と効果」

ベッドで横向きになり、背中をエビのように丸めてください。背中を消毒し、
細い針で皮膚の表面に痛み止めをしてから、背骨の隙間から専用の針を挿入し、
直径1mm以下のカテーテルを留置します。そこから薬を投与することで陣痛
による痛みを和らげます。最初に麻酔の効果を確認するのはもちろんのこと、
分娩中も麻酔の効果や合併症が起こっていないか何度も確認します。

様

「麻酔に伴う副作用合併症」

麻酔なしで無痛分娩を受けることは出来ません。それぞれの妊婦さんの体の具合や麻酔薬との相性により時に予想を外れる状況になることがあります。このような時は麻酔方法の変更（カテーテルの入れ替え、再挿入）など、臨機応変に対応して参ります。

治療は通常安全ですが、下記の副作用や合併症がおこる可能性があります。

□比較的多い副作用

- 低血圧
- 吐き気、嘔吐
- 下肢のしびれ（脱力感）
- 尿が出にくい
- かゆみ
- 体温上昇
- 背部痛
- 硬膜穿刺（硬膜穿刺後頭痛）

□まれな副作用

- 局所麻酔薬中毒

（局所麻酔の影響で不整脈やけいれんなどが起きることがあります。）

- くも膜下誤注入

（硬膜外麻酔のカテーテルが深く入りすぎ、脊髄くも膜下麻酔になる現象です。急な下肢脱力や血圧低下が生じます。 100 人に 1 人以下）

- 神経損傷、神経障害

（原因不明のこともありますが、麻酔の針先が神経に触れるとしびれや痛みが長く残る場合があります。 1-5 万人に 1 人）

- 硬膜外血腫、出血

（背骨の中で出血が起こり、血腫により脊髄が圧迫されると下肢麻痺などの症状が生じるので血腫を手術で取り除く場合があります。 20-25 万人に 1 人）

- 硬膜外膿瘍、感染

（針を刺した部分で最近感染を起こし進行すると背骨の中に膿がたまり脊髄を圧迫されると下肢麻痺などの症状が生じるので膿を手術で取り除く場合があります。 10-15 万人に 1 人）

万が一こうした合併症が生じた場合には、必要と思われる最善の処置を行います。

患者さんの診察データは（画像検査、血液検査結果、診療経過など）は、個人情報の特定につながる情報を除いて学会、研究会で使用させていただく可能性があります。

様

同意書

富山市立富山市民病院 病院長 殿

私は硬膜外無痛分娩に関して、担当医師から、施行する理由、方法、合併症などについて、「硬膜外無痛分娩に関する説明書」を用いて説明を受けました。また、不明な点について担当者と話し合い、質問する機会を得ました。

私は下記に関して十分に理解し、硬膜外無痛分娩を施行することに同意します。なお、説明文書とこの同意文書の写しを受け取りました。

目的、内容、必要性、有効性
主な副作用、合併症とその発生率
副作用、合併症発生時の対応
代替可能な検査、治療
検査、治療を行わなかった場合に予想される経過
検査・治療の同意撤回
セカンドオピニオン
上記説明につき理解しました

【説明】

説明年月日：

説明した医師：

同席者(看護師等)：

【同意】

同意年月日：20 年 月 日

同意者(本人)：

*患者さんに判断能力がない場合にのみ、代諾者が、自筆署名、もしくは記名押印して下さい。

(代諾者)：

(患者さんとの関係：)

(立会人)：

(患者さんとの関係：)